

第6日

平成28年6月21日（火）

午前10時零分開議

○議長（浅尾静二君） 皆さん、おはようございます。これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は17名で、会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、一般質問を行います。

質問通告者及び順位はお手元に配付のとおりであります。申し合わせにより、1人当たりの質問時間は答弁時間を含めて60分以内となっております。御了承願います。

それでは、最初に16番実藤輝夫議員の質問を許可します。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君） 皆さん、おはようございます。久々の一般質問1番が当たりまして、7期目を迎えておりますが、常に緊張しながら、一生懸命一般質問しなきゃならないというような覚悟でここに登壇をさせていただいております。

一昨来からの九州に非常に豪雨が来まして、まだこの朝倉市も、先ほど報告を受けました、多少被害も、少しはあったようで、なかなか世界を含めて日本全国が異常気象に見舞われてると。将来の日本も、その大きな災いの中に入っていくのではないかということが現実化してまいりました。これに対して、国はもちろんのことながら、地方自治体がどう対応していくのかということ、もう既に、もう今からやっておかなきゃならないと、こういう時期に来ていると思います。

もう一つは、もう皆さん御承知のとおり、福岡県では特に、西日本新聞を中心といたしまして、「問われる議会の存在意義」というのが時折連載されておまして、この一、二カ月もまた新聞でにぎわしております。東京都の問題も含めまして、今、議会とは何か、議会はどうかあるべきかというのが問われてきております。

私たちが地方議会に籍を置く身として、私たちは何のために議会活動をし、議員という籍を任されているのかと、こういうことを真摯に考えていかなきゃならん時代ではないかと思っております。議会の本質、議会の必要性というものは、私、前回もとうとうこの壇上で述べさせていただきました。

きょうは、今私が、この朝倉市が抱えている行政の、朝倉農業高校跡地の問題、市庁舎問題は先般やりましたので、別途に、この一、二カ月の間に新聞紙上でも取り上げられてきた問題について、朝倉市はどのように対応していく。そして、これは今後、どのような形でこの課題に対応していかないかのかということ、市長に問いただしていきたいと思っております。

以下、質問席より続行いたします。

（16番実藤輝夫君降壇）

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 通告に従いまして、1番最初のタイトルとして、将来にわたる人口減少と財政悪化に対処する朝倉市の施策について。

これは、私が毎回、一般質問するときの最初に出すテーマといたしますか、最大の課題だというふうに思っておりますので、これを踏まえて、以下、この通告しております要旨に基づいて質問をしていきたいと思っております。

市長は御存じだと思いますけども、筑前町にヤクルトが進出するという記事が報道されました。具体的な中身については、この議会、少なくとも私は十分に承知をしておりますませんでした。1回もこういう問題は出ておりませんし、経過についても報告もない。最終的には、ヤクルトが筑前町に進出するということになりましたので、当該朝倉市としては報告義務もないということになったのではないかと思います。こういう形で出た以上、市民から、ヤクルトが何で朝倉市に来なかったのかという問いを私何回も聞かれまして、答弁に困ったということです。

これは、企業誘致を一つの柱にした市長施策、あるいは朝倉市の将来に関して非常に大きな問題でありますので、この件について、まず市長の見解を問いただしたいと思っております。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） ヤクルトの進出問題については、現在、ヤクルトの工場が筑紫野市にあるわけでありまして、この土地が狭くなったというもろもろのことがありまして、朝倉市にも問い合わせがございました。これは、主に県を通してということじゃなくて、民間の不動産業者、あるいは建設業者等が独自にいろんなところに当たられております。

その中で、朝倉市にも2カ所、私が知ってる限りでは2カ所程度の候補地として、民間のほうが先行で話があったようであります。1カ所については、丸々農地でありました。1カ所については、民間の持つ土地、元工場があって、あいておった土地であったと。

実際市としては、そういう話を受けまして対応しておりました。民間の土地については、すぐにでも活用できる土地であったので有望ではないかということで、私どもも期待をしておりました。もちろん市として、やるべき動きはしてまいりました。

しかし、残念ながら、これは別な要因、ここで申し上げることが適切かどうかわかりませんが、別な要因で、どうしても工場の性質上、近隣の問題等もございまして、そこには工場は誘致できないという形に、工場にすることが難しいということになりまして、結果的に筑前町が持っておりました工場用の土地、造成した土地、それプラスアルファという形で、そちらのほうに誘致がなされたということでありまして、以上であります。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 確かに、結果的に朝倉市に来なかったわけですから、何らかの理由があるわけでしょう。しかし、その理由というものが、本来これは払拭して、どうしても朝倉市に誘致をしたいと、しなければならぬというものであるならば、そういった問

題を解決していく、こういう手だてが必要ではなかったのかと思います。

今のような問題は、当然、工場を誘致する場合には、すんなりと100%の条件で来るということはありません。いろんな問題を乗り越えながら、これだけの大きなヤクルトという、日本全国でも有名な企業を誘致するということは、市長、これは、あなたの施策にとっても重要な課題ではなかったのか。

確かにある、小田ですかね、あちらのほうにある会社、あるいは平塚工業団地の近くというような場所というのが物色されたということは知っております。中身についても多少知っておりますが。

問題は、これを筑前町がどうしても誘致したいという形で、非常なる熱意を持って、町長以下動かされたということが私たちの耳に入っております。

確かに造成地といいますけども、あれは途中から造成を始めて、そして並行的にやってきたという話も聞いております。だから、完全にそういうものがなければ、朝倉はどのような対応をしていくのかというのが一つの課題として出てまいります。2つあります。

一つは、筑前町の町長が東京本社まで行って誘致活動を何回もやったと。トップがそれだけの熱意を持ってやったということが事実として伝わっております。

もう一つは、この工場を誘致するときに適地がないと、いろんな問題があるというのは、今後、この種の優良の企業がどこかを物色して、朝倉市に来たいというような形で動いた場合に、結果的には受け入れができないということになってしまいます。

これは、これまでずっと議員のほとんどの皆さんが企業誘致、雇用促進ということを訴えてきたわけですが、多少ここの資料もありますけども、数社、今まで企業が進出しておりますが、このキリン、あるいはBS、ローム、これに匹敵するヤクルトというような大きなチャンスを、進出のチャンスを逸したということについて、何らかの、それ以外の努力をしていかなきゃならんのではないか。

あの場所がだめならば、物色して場所を探す。その1年、2年で決まったわけじゃありません。これは数年前から、この動きはあってるわけですから、何らかの形でできないものはどうかするか、こういった態度が、市長、必要じゃなかったんですか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） それは、どこの自治体におきましても、そういった企業を誘致する場合、トップはそれなりの動きをいたします。私もヤクルトについては、それなりの動きをさせていただきました。しかし、残念ながら、うちの場合は、もともとあった、工場があった空き地、民間の所有の空き地、ここが一番適当だということで、ヤクルト側もそういう判断をしておった。

恐らく実藤議員は、聞き取りのときになぜ来なかったということ、事情は御存じだというふうに私は聞いております。その理由については伺った。そういうものがある中で、最終的には、もちろん筑前町も一生懸命努力をされたんだろうと思う。結果として、そのこ

とによって筑前町に行っただ。これは非常に残念なことでありますけれども、結果としてそういうことになった。

言われますように、これは現在でも、いろんなどころにいろんな企業の引き合いが出てます。そのことについて、トップとして当然やるべきこと、やるべき行動やっておりますので、そこらあたりは御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） はっきり言って御理解できませんね。誘致していくというときのトップの態度、姿勢、気持ち、これがほとんど、いろいろ巷間聞く限り。市長は、どういうふうな動きをしてきたのかというのが、私たちは、ほとんどこの中でも、企業誘致について、ヤクルトの誘致について承知されてる方はそんなにいないんじゃないですか。こういうのが出てきて、ヤクルトが向こうに行くげなねという話だったんじゃないですか。

去年、私もそれをやっとな話を聞きまして、向こうのほうの知り合いにも問い合わせましたが、これは、非常に議会のほうもすんなりと、情報が入らないままに、町長のほうが動いたとかいう批判も出てました。私、いろんな中身を知っております。そういうことは個人的な見解でしょうから。こちらのほうで町長との話がありながら、全体的にはまだまだ並行しながら進んでいたということです。だから、トップはこっちのほうで一生懸命やりながら、両方とも提携しながら、本社と町長と議会というのが三位一体になってきた、こういうのをくり上げてきたという話ですよ。

だから、最初は、なかなか雲をつかむような状況で入ってきたということ、今ちょっと私の言葉足らずで申し上げたんですが、最終的には一体化しながら培ってくる。これは、何が物語ってるかという、トップリーダーの姿勢の問題ですよ。

僕は何もきょうね、森田市長をこきおろして、あなたがだめだとか、そういう話をするつもりは全くない。笑うのはおかしいよ。ここは議場だよ。失礼とは思いませんか、そういう笑いは。だから、こっちも真剣白刃にやってるんだから、何を笑ってるの。怒るよ、こっちも。きょうは冷静に、私はゆっくりとやっといこうとしてるんだけど。真摯にこの問題に取り組んできたという姿勢が見えてこなければ、今後どうするかという話をしないといかんのだけど、時間の関係で非常に限界があるんですけども。

そういった問題を、きょうは3項目を、全部重要な問題やりますんで、余り長くやれないんですけども。（「一言だけ」と呼ぶ者あり）はい、どうぞ。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 三位一体で、それは、ある程度の時期が来れば、当然議会の皆さん方にも協力をお願いいたします。ただし、今回のヤクルトの場合は、さっきの1カ所というのは、丸々農振地域です、丸々。そこは民間でされてるけど、これは無理だろうと、今の法律上。しかし、うちとしては、あるのは、今指摘されてる土地、ここについては、いつでも工場が来れる土地です。ですから、私は担当者にとって、本社に行くからと、ア

ポイントまでとってます。聞いてください、担当の当時の課長に聞いてください。

しかし、向こうの事情、これはいろいろどういことがあったかわかりません。しかし、ちょっと待ってくれという返事でした。そういうことです。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 先ほど私が言ったことに笑われましたんでね、私も笑いましょう。あれはね、それはもう別のほうで動いてる形ができ上がってるんですよ。いろんなところ触手伸ばしてますよ。だから、その熱意のもとに動いていこうとするところに誰でも動きますよ、企業は。人でもそうです。だから、アポイントとろうとしてやったんだけど、向こうが受け入れてくれなかったというのは、何かこの前の県の関係とよく似てるなど、また思い出してくるんですけども。

そういった形がね、もうあなたには、市民も議会も大半があなたを支援してるわけだから、痛くもかゆくもないのかもしれないけど、本当にまじめに将来を考えてる人もいるわけだ。その人が、ほかの人が全然考えてないというわけじゃなくて、あなたはどんなやり方をしてでも、どんな形でも、議会も市民もついていきますよ。ここは、私は、ヤクルトという大きな千載一遇のチャンスだったんで、これをどうにかしてやるという姿勢でやってほしかった、これが1番です。

2番は、この種の企業、これから先ですね。余り時間はないんですけども、これから先、この種の企業が、大きな企業が来たときに、本当に受け皿はあるのか。例えば工業用水は、御承知のとおり、建設委員会で私も毎回これを指摘してるわけですが、全部キリン工場が所有してます。だから、工業用水として必要とする水は企業に渡すことはできない。そうすると、上水道あるいは地下水という形でやる。先ほども調べてもらったんですけども、ヤクルトは上水道、筑前町は上水道、地下水でやるというような形で進めています。

それから、造成するというのがありました。先ほど工業団地というのありましたけども、これも開発公社が閉鎖して、今は普通財産として1カ所だけ残しておりますが、これから先の工業団地、あるいは工場誘致のための敷地、あるいは土地、これどのように開発していくのか、どのように確保していくのか。今やらなかったらどうしますか。この2年、3年、5年、10年後に問題が来たときに、またこんな問題があります、こんな問題あります。既成事実の問題で否定的になってしまうじゃないですか。これが大きな問題でもあるわけです。これどうですか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 企業を誘致する場合、土地が必要であります。今、土地がないというふうな、来たときにどうするのかという話がございました。私どもでは、まず民間の適地ですね。御存じのように、武田薬品の土地については、武田薬品側の事情で売却ができたということで、本来、今太陽光発電かなんかがしてありますけども、そのほかにもロームの跡地がございました。そのほかについては、先ほど言いました林田工業団地につい

てもございます。

それと、それで足りない場合については、農地の、いわゆる法的に転用が可能な農地というものは、私どもとしては把握をしております。そこらあたりを一つの適地として今後考えていこうと。

正面切って工業団地を造成するということが、今の時点必要なのかどうか、いいのかどうかということについては、これは十分、議会の皆さん方とも議論して判断していかなきゃならんだろうというふうに思ってます。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 今回は、あと2つ、私にとっては非常に重要な問題抱えてまして、ほとんど20分近くなってきました。問題は、この企業誘致のときに、政策マネージャーもおりますが、どれだけの熱意と努力を持って企業誘致をしていくかという覚悟の問題、2番目は受け皿の問題。熱意だけでは来ませんから、それに対応できる土地、水、その他の条件、こういうものを早急に、市長以下、企業誘致、雇用促進というのを打ち出してるわけですから、大きな市長の施策でもありますし、これはどこの、日本全国の市町村長は全て言っておりますけども、これを具体化させていく施策を講じていただきたい。それについてはいかがですか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） まず、熱意についてお疑いがあるようでありますけども、私は熱意を持って今までもやってきたつもりでありますし、今後もやっていくつもりでありますということを申し上げます。

その上で、用地については、先ほど話しましたように、今から、今ある可能な土地というものを市として把握をしておりますので、まずそこに何とか誘致をしよう。その後の工業団地的なものについての、これは造成をしなきゃならん問題ございますので、そこあたりについては、もちろんそれについては財源も必要なことでありますので、そこらあたりについては、議会の皆さん方と議論しながら今後考えていくべきだというふうに考えております。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） やっと市長から一般質問の中で、議会の皆さんとともにという話が出ましたね。これについては、ほとんどというか、ゼロだったんですよ。企業誘致その他については、報告を受けるだけ。議会の責任でもあるんですが、自分たちが積極的にこの問題にかかわっていかうというのはほとんどない。だから、これからは、市長を中心とした行政、議会、これは後からもその話をするんですが、市民、もちろん今までもやってきましたけども、これ以上にやる。

1番目は、こういう場所で私が熱意の話をして、私は一生懸命やってないという市町村長は一人もいません。誰でも一生懸命やってる、そういうふうに答弁しますよ、当たり前

で。ただ、結果として出てくる。これは、企業だったら、民間企業だったら、結果責任なんですよ。これだけは覚えとってください。幾ら言っても弁解にはならない、もうだめ。結果が出なければ、企業では切り捨てられていきます。今皆さん方も承知だと思います。幾つもの有名なブランドの大企業が非常に危機に陥っております。そういうことを申し述べて、次に移っていきたいと思います。市長も、1番、特に2番目はやるということですので、それを期待したいと思います。

2番目は、地場産業の育成、特産品開発についてというふうに言っています。

これ、ふるさと納税というものを入れてたつもりなんですけども、これに載ってないんで、ああそうかという話しました。実は、これも皆さん御承知だと思いますけど、新聞に出ました。地域の素材活用、和風ドレッシング、朝倉光陽高生開発、返礼品にと。この大きな見出しが出たんですよ。これ見たときね、新聞、朝でしたけど、うわあすげえな、朝倉光陽高校がやったと、私は本当に思いましたね。

ところが、その次、これから見ると5分の1ぐらいの字なんですけど、うきは市、ふるさと納税で採用となってます。何じゃこりゃと、そのときの落胆、今でも覚えてます。やっと朝倉市は光陽高校と提携してやったんだというふうに思いました。私は一貫して、ふるさと納税については、その必要性和今後の対応ということを書いてまいりましたが、これを見て、市長はどのように思われましたか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） うきは市もしっかり頑張られてるなと思いました。朝倉光陽高校については、あそこには朝倉の生徒だけじゃなくて、うきはの子どもたちも通学をしています。だから、どういう過程でうきはの、これは三位一体という商品らしいですけども、を開発されたのかという経緯については私は定かではございません。しかし、そういうこともあってやってると思います。

ただ、実藤議員御存じのように、朝倉市につきましても、これは、平成21年度については、朝倉光陽高校、これ柿あんパンとか、柿ジャム、そういった物を朝倉市と一緒に開発しています。

平成22年度については、これはコンビニエンスストア、これも新聞に大きく出ました。についても、朝倉市がお願いして、光陽高校に富有柿ロールというパンを開発してもらってます。これ販売当時、相当新聞に出たと思います。

23年につきましても、柿ペーストをフリーズドライというような形で、光陽高校と、朝倉市が支援して、そういった開発もしていただいております。

そういった流れの中で、今回のうきは市の三位一体というものが出てきたんだろうというふうに思ってます。ですから、これはお互いにそういったことで切磋琢磨する。それをふるさと納税の商品にされるということについては、それは、うきは市も頑張っておられるなという思いであります。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 朝倉市も朝倉光陽高校との提携が全然ないとは思いませんよ、当たり前でしょう。あってしかるべき、ないなら問題。資料をもらいましたら、平成20年度、富有柿ロール、23年度、柿くるり、それから23年度から26年度までですが、ふり柿たろうと、こういうのがいろいろ出てますね。これは、必ずしも朝倉市だけではないんですが、これは今、限定でもう終わってます。

今回ののは27年度、「カキッズでポン酢」と、「SUN味一体」これが出たんですが、これが返礼品セットとして。特に山田インターで売られてるといっていますが。

問題は、この新聞によりますと、3分の1は、うきは市から通学というふうになってます。ほかの子等は、朝倉市から通学してる人がもっともっているわけですから、これやり方だったんだろうと思います。

一番大事なのは、こういう高校生がこの関係で開発していった。それをメディアが取り上げた。そうすると、これを新聞紙上で見る、あるいはそれをきっかけに地域の中に打って出る。今開発をしてないところはほとんどいませんよ、ありませんよ。1,800以上の市町村の中で、ふるさと納税の金額の高い、後でやりますけどね。しかし、それなりの開発をやっています。これをいかに朝倉市が、この種の問題で取り上げていくかというのが、今競争なんですよ。

これは、市長が非常に否定的な言葉を2年前に私に言われましたが、今度、一般質問でやっていますんで、資料がありますから見とってくださいね。ふるさと納税について私が聞いたしたら、趣旨が違いますと言われました。副市長はそのときの総務部長ですから覚えてると思いますよ。ちょっと話をして、そういうことを言われましたよ。趣旨が違うんだと。

そのとおりですよ。ふるさと納税というのは、最初は、地方の税の格差を是正するためにつくられた。しかし、徐々に、徐々にお礼という形をとりながら、ふるさと納税を伸ばしてきた。非常にこれが今大きな地方自治体の財源、あるいは地場産業、地域おこしになっているという事実を、どんな角度からでも否定することはできない。唯一否定されれば、過熱化しすぎて、自分とこない品物まで持ってきたとか、金券を使ったとか、それはこの種の制度の中に必ず100%ではない。

私は、2年前でもそうなんだけど、提言書をつくったときに、皆さん方と一緒につくったときにはもう書いてますよ。後でこの資料で、いかに、新人議員の方はどれぐらいの金額だったのかというのが、びっくりするぐらいの金額が出てくるんですけども、それでもやらないかんだと力説しました。

そして、今や、このふるさと納税をテレビとかで出ないときが1週間のうち一遍もない。私、毎回チェックしてますから。いろんな角度で出てますね。賛否両論ある。それはそれでいいんですよ。

私は、この前、平戸のことが1番になったときに市長に尋ねたら、市長はその席から何と答えましたか。平戸市長と会いましたと。平戸市長は困ってるんですよ。私言いましたよ、一遍ぐらい朝倉市も困った状態になったらどうですかと。副市長、そう思いませんか。

いいですか、平戸市が2年前に15億円、トップでしたよ。去年か。今度は都城が、3月のときに私がやったのが35億円。これは12月まで。そしたら3カ月後、2015年度で幾らになったと思いますか、42億円ですよ。この3カ月間の間に7億円。3カ月の間に7億円ふえてる。

それと同時に、そのとき市長は、その市のトップはみんな湾岸、魚、その他のところですよと言われました。3月に天童市のことをお話しましたね。これは、一昨年、約8億円ですよ。去年、約27億円。今回は32億円でしたかね。これぐらいに今伸びています。

ましてや、この新聞に出てるのが、一番このときも言ったんだけど、返礼品の問題だけではなく、地場産業の育成ということなんです。私たちが一番大事にしなきゃいかんのは地場産業の育成。これは、農業産品だけではなくて、いろんな商品があります。

これを、ここに書いてあるだけでも、都城市は返礼品の特産肉や地元の焼酎が人気だったというんですね。これは宮崎ですから、そうでしょう。焼津市はマグロ、天童市はサクランボや、希望する名前を入れてもらえる将棋駒ストラップが好評だった。一昨年ですか、去年ですか、約8億円が今回は32億円です。

今、朝倉市にとって、財源は喉から手が出る以上にもっともっと欲しい。いつも何か住民が要望すると、金がない、金がない。何のためにやってるの、今の事業は。こういったときに、私、天童市に電話しましたよ。職員が2人だけ。あと、みんな囑託、臨時でやってる。でも、これだけの金額をやって、総務部長、副市長、財政課長、誰でもいいんですがね、答弁しないでいいけどさ、本当に幾ら人件費かかる。しかも、大体平均して5割返礼なんです。

私は、朝倉市は少なくとも10億円を目指さないかんと思ってるんだけど、ことしの3月では3億円ということでした、目標が。平成27年度は2億円です、2億100万円ぐらい。初めて見た人はびっくりしますよ、これ。参考に、市長になったときからですけど、22年度から27万円、23年度が6万円、24年度が19万円、平成25年度が32万円、平成26年度は50万円、特別寄附がありましたので77万円、77万円が最高ですよ。

そして、平成27年度に至って、ちょうど上限が20%になりましたからね、10%が。これで朝倉市は2億130万円ぐらいになりました。これだけ聞くと、わあとやった人たちがおるんですよ、実際に。でも、よそはこれの20倍ぐらいの伸びを示している。

しかも、市長だったら誰でも、皆さんが市長だったらみんな思うんじゃないですか、これの半分でも財源が自由に使える金が、自由に使えるというのは、これ特化しますけども、1つ二、三億円入ってきますからね。自分ならこれをやりたい、福祉関係だったら子育て

に使いたい、都市建設部やったら住宅の問題で特化してばんとやりたい。一般財源が使わないんだから。こういったものを朝倉市の人口減少に使っていかねばどうしますか。

そのために私は2年前から、ふるさと納税は絶対必要なんだ。増税できませんよ。増税はできない、減税は市民は喜ぶけど。これは合法的な国が認めた、しかも、入ってきた金の約4割は地場産業の育成のための返礼として買うわけですから、残りの金額、約5割から4割、これは丸々残る。これを何に使ってもいい。この42億円の都城、この市長は本当にうれしいでしょうね、いろんなこと言われて。

福祉部長もおられますけども、今近々の課題は子育て。子ども。結婚して、出産して、子育てして、そして人口をふやす、社会増減を増すためには、企業誘致、雇用促進、全部絡んで。今一番困ってるのが地場産業の衰退。これも、これによって、天童市だけではなくて、あっちこっちがほとんど悲鳴を上げるぐらいに困ると、うれしいほうに。それぐらい朝倉市がならなかったらどうしますか。

だから、私が高校生のを取り上げたのは、これはきっかけです。これがどうだこうだという論議をするつもりはない。しかし、こういうのが出てきた以上は、本当にちっちゃなことかもしれないけど、これが平成27年度で、全部26年度で切れてるわけだから、期限切れになってる。そうすると、27年度で新しい開発をしてる、こういった問題を取り上げることによって、私は朝倉市の将来が決まってくる。

これをやらずして、平成32年度に単年度赤字、35年度から累積赤字、これに対して、誰か議員の中からも漠然たる不安と言った。何が漠然たる不安ですか。確実なる不安ですよ、これは。もう数値として出てきてる。

私は、副市長が財政課長のときから、ずっと二人で、二人というわけじゃありませんけど、いつもちょうちょうはっし、検討、研究してきました。少なくともかなりの知識はあるつもりです。その上にのっとして発言しておりますが、財源を確保する。出るを制すではなくて、今財源を確保することの道が、このふるさと納税にある限り、徹底してやるべきです。市長、どう思いますか。

**○議長（浅尾静二君）** 市長。

**○市長（森田俊介君）** ふるさと納税というのは、幾つかの意味があると思うんです。一つには、自分の出身地、あるいはそれに近いところを応援したいという純粋な気持ちの方、それともう一つは、返礼品がいいという形で、もちろん課税の対象外になるわけですから、そういったことも含めてそれにしようという方。

それはそれでいいと思うんですけども、私どものところでは、御存じのように、昨年度、市内の全ての業者の方に、ふるさと納税の返礼品を出してはということで募集をいたしました。初年度は、それにのっとしてやらせていただきました。御存じのように、最初やった6月は、今から果物、フルーツの季節でしたけども、すぐに残念ながら売り切れて、品切れになりました。これは反省点として私は持っています。ですから、今年度については、

そういうことがないようにということで、JAにもお願いしてありますし、そのほかの協賛の方にもお願いをしております。

そして、大事なことは、先ほど言われますように、朝倉市にとって、そのふるさと納税で、恐らく私どもが基本的に申し上げますように、3割なんですね。1万円のふるさと納税していただければ、約3,000円ぐらいのお礼の品を上げようと。これは小売値ですね。そういう形でしております。それで、結果的に市に残るのは5割であります。ですから、今非常に過熱をして、そのことについて、マスコミ等でも今度は批判的な報道もなされております。

というのは、どういうことかと申しますと、ふるさと納税の品物として、自分のところでないもの、金券ですとか、そういったことが一つ。もう一つは、過大なもの。1万円しかないのに8,000円送ったら、これは恐らくとんとんまでいかんのじゃないか。もちろんその生産者は潤います。そういう面でのプラスはあるけれども、そういったことに対する問題点も指摘されております。

そういうものをきちっと私どもとしては、本来の形、先ほど否定したと言われましたけれども、私は否定したわけじゃなくて、ふるさと納税の本来は何でこれができるのかということ、そういう制度がですね。これについて、自分たちのふるさとを応援しようじゃないかということに対して最初はできたはずなんです。そのことをきちっと押さえた上で、このことに取り組んでいかなきゃならん。

一方、今言われますように、なるべく多いほうがいいわけですから、今からも努力して、いろんな品物をもっとふやしたり、いろんな形を工夫をしながらふやす努力は当然していかなきゃならんというふうに考えております。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） これだけの金額を出してる、100、200の地方自治体から見ると、市長の答弁は、少なくとも私が長年やってきた議員経験からすると、弁解にしか聞こえない。なぜかわかりますか。私たちは何とかして市民要望に応えていきたい。あすの朝倉をつくりたい。そのために、人口減少に対してどういう施策を打つのか、あるいは財源をどのように確保していこうとしてるのか、毎回、真剣白刃にやっていますよ。今言われたような否定的な言葉はわかりきってる。もうこれは、あちこちで新聞出てる。しかし、それでもなおかつ、ふるさと納税を必要とする地方自治体がどれだけ多いかということです。それを知らないんですか。

上からの批判、あるいは新聞紙上からの批判もあります。しかし、それは現実にはわずかなふるさと納税しかもらってないところの言い分。これを非常に将来のふるさと、まちづくりに充てておる市町村からすると、こんなにもいい財源はないわけですよ。朝倉市は消滅可能性都市と言われてる。現実になります、これは。99.9%、予測どおりになる。私も統計学やってきましたが、少なくともこれに変わるものは出てこない。

そうすると、今私たちができることは、このふるさと納税がいつまで続くかわからないんだけども、このチャンスを本当に市長以下、市役所職員、議会議員、市民、生産者一体となってやっていくべきだ。

しかも、今度、2億100万円出たのは、キリンビールの福岡工場がつくったビールを売り出した。日本全国のキリンビールのファンが買ったんですよ、これを。ところが、先般、キリンビールは、各県の特徴あるビールを売り出すと、テレビで出ました。果たして福岡工場だけが今までどおり、ふるさと納税で返礼品として買うのでしょうか。地域の中にいろんな、今大体、昔は8つぐらいありましたけど、今は少し縮小してますけど、キリンビールも幾つも工場ある。それも生きるか死ぬかで今キリンビールは頑張っている。そういう状況の中で、朝倉市の産品を開発していく。

きょう取り上げたこれは、わずかな金額でしょう、わずかなものでしょう。しかし、これを大事にしなきゃならん。こういった努力を積み重ねることによって、私は本当に、平戸市長が言ったと森田市長から話は聞きましたが、困ってるぐらいに皆さんやろうじゃありませんか。私でお役に立つんだったらやりますよ。

私は言う以上は、前の部長と話し合いもして、いろんな物を私の知り合いのところに送りました。それはふるさと納税ではありませんけども、市の産品を持ってきてくれと。それを全部私が買って、そして知り合いとか、友達とか、よそに出てる人たちにやりました。わずかですよ、それは。しかし、みんなが1品でも、2品でも朝倉市の物を買って、奥さんの里、あるいは旦那の里、あるいは友達、いろんなところにそれを売ったらいいじゃないですか、私もそれやってるわけですから。そういった努力の積み重ねが、ふるさと納税という制度に乗っかって、私はふるさと納税が絶対ではない、これは手段だ。

目的は、朝倉市の地場産業を育成し、そしてこの市に住んでいる人たちが、ここに住みたい、そしてまた、若者が住めるような町をつくっていく、そういうものがなかったらいかんのではないですか。このふるさと納税にかわるものがあったら、教えてくださいよ、私に。これだけの金額が出てくるんですよ。

これも新聞に出ておりましたから、皆さん見られてると思いますけど、天童市は32億円ですよ。この前から、私が3月に話した時点から。あのときが27億円、約。5億円上がってる。3カ月で5億円ですよ。こちらは、1年間で1億円上げようという話なんだけど、それも3億円、今2億円なんだけど。

だから、決して今の状況がだめだ、だめだと言ってるわけじゃなくて、私も努力してるわけよ。毎回、このふるさと納税をやってる。職員の方はまたかと思われるでしょう。何回もまたかと思ってくださいよ。財源どう確保しますか。皆さんの仕事は何ですか。市民のために市民要望に応じていく行政施策じゃないですか。金がないんでしょう。みんな困ってますよ、市民は。行けばだめ。職員もこれ話をしたけど、やっぱり金がないからだめと言われた。市の職員の意欲もなくなりますよ。やっぱりそうなんですよ。

だから、私は何回も何回もふるさと納税のことを話をしております。市長、先ほど否定的な話でしたけど、前向きな気持ちがあるか。趣旨について、何回否定的な話を聞いても、何の私の質問の意味にはならないということです。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 私は否定的な話はしたつもりはございません。否定的と言われるから、まずそのこと。（発言する者あり）だから、否定的な話はした覚えはございませんと言ってるわけです。もちろんそういったいろんな規制がある中で、今もやっていますし、担当者なんか一生懸命頑張ってます。そういう形で、今度ふやしていくということについては、当然努力をしていかなきゃならないというふうに思っています。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 否定的かどうかというのは、あなたがこの一般質問のとき、あるいは決算その他で私が質問したことが全部載ってるわけだから、それに基づいて言ってるの。決定的にそれがだめですという言葉が誰が使いますか。それに対する意欲的な発想になるかどうか。

森田市長は本当いいね。こういう議場でも、苦笑いか、本気で笑いか知らないけど、真剣白刃にやってる一般質問の議員に対してそういう態度をとるんだもんね。信じられない。本当にお互い一生懸命やっていかないかんのじゃないですかね。私の質問に対しては、議員の皆さんからも、またかとか、眠っちゃうとかいう、向こうから見てたらそういう人がおるそうで、それで構いませんよ。

でも、私も議員の端くれですから、同様に朝倉市を憂うのは負けちゃおりませんよ。そういう形で一般質問をしておりますので、苦笑いぐらいなら許すけど、本笑いなんかはしちゃいけませんよ、市長、失礼です。

3番目の項目に移ります。

これについては、市民の方はほとんど知らないままに、これが推移してきました。これは3月議会の中で、地方創生加速化交付金というのが、日本全国で1,000億円、これは皆さん御存じだと思うんですけども、これについて、朝倉市は8,000万円出しましたが、最終的には3,000万円の農業関係のが採択されただけです。

これも言い出したら、あと15分だから、そんなたくさん時間ないんだけども、これ議会、十分に検討しましたか。皆さん、これ資料あるけど、大丈夫ですか。物すごい中身が入ってますよ。この中身は、今後の朝倉市がやっていかないかんことがほとんど書いてある。これ議会でも報告受けただけで、若干の質問しただけ。そして、結果的にはだめでした。3番目の項目ね。

これは、この議会で数人の議員が夢があると。これによって、何とかなるんじゃないか、朝倉市は。希望の事業だというふうに言った議員がおります。覚えてるでしょう。ところが、ふたをあげたら不採択。どうも話聞いたら、調査費だと。そんなのわかってる、

最初から。いきなり出したわけじゃないよ、これは。十分に県と検討しながら国に出して  
るわけ、これは。

これ読んでみたら、本当に地域連携というのが出てきてるんですね。幾つかの項目があ  
ります。これを採択する基準です。ほとんどこの甘木鉄道を生かして、JR鹿児島線に乗  
り入れるというのは、私も最初聞いたときから、これはいいね。これが採択されない理由  
はないねと。だって、これ朝倉市だけじゃなくて、小郡市も大刀洗も基山もみんなお金出  
して、残りの2つの町村は金は出しませんけども、6市町村でこれを計画していこうと。  
これが採択されないということは私には理解できなかった。多分できるだろう。多分じゃ  
ない、確実にできるだろう。

そしたら、3月議会のときに、もう既に中ごろに、これは不採択というのが決まった。  
ですよ。ですよ。そして、それに乗っかって、まだやる、まだやると、市長はあっちゃこ  
っちゃでこの話をしている。それだったら、それが悪いとは言わない。当然市長だから、  
自分の考え、夢もあるでしょう。

しかし、本当にこれはどれだけ検証されたのか。そして、これを今後、どれだけやって  
いこうとしているのか。やります、やりますだけでは、あと時間が余らないけども、こ  
ういうやり方を続けていく限りは、希望の事業すらもできないんじゃないかというのが、こ  
れを改めて読んだときに感じたものです。

恐らくこれを具体的に読んでない方がほとんどだと思いますので、私が言ってるのが抽  
象的かもしれませんが、これは議会も参加するってことになってますよ、将来的には、皆  
さん。本当に私たちは、これを行政の一部だけに任せていいんですか、こういうことを。  
私たちの夢ですよ。それが採択できなかったというのは。しかも、100億円の中に、皆さ  
ん、これもらった、みんなもらったんですよ、全協で。何%採択されてますか。私たちの  
責任ですよ、これは。六十数%が採択されてる。朝倉市は8,000万円出して、採択され  
たのが30%。本来ならば、これを足しても5,000万円ですから、日本全国の平均の採択率か  
らすると、当然私はこれは採択されてしかるべきだと思う。

ただ、調査費だったから。当たり前だ。調査費と書いて出すばかがどこにおるか。これ  
読んで、不採択理由を内閣府までやっとなら聞いたという話だから、私、全協で聞いたら、市  
長は、そんなのは国は何も説明しませんよと。覚えてるでしょう、皆さん。それで終わ  
ったじゃないですか。そんなんでいいですか。

私たちは、これを希望の事業とするならば、何でこれができなかったのか、今後どうや  
ってやるのか。これ皆さん、何年度に終わると書いてあるか知ってますか。これが大事で  
すよ。今まで何回も決めて、先延ばし、朝農跡地なんかはもう10年ですよ。まだ10年後に  
もできない。平成32年度もどうなるかわからない状況。繰越明許でから1年延ばすとい  
う話も出てきてる。33年度ですよ。何年たつんですか。グランドデザインができてないから  
ですよ。これ32年度、5カ年計画でやるというんですよ。だったら、それに基づいてやっ

ていかないかんですよ。議会は、これを十分承知してますか。これだけの大きな問題を。

皆さん、素晴らしい事業だと言っておきながら、全協において不採択という話で、質問したのは私一人。こんなことで朝倉市の将来はできるんですか。一緒になってやりましょうよ。特別委員会でも何でもいいや。市庁舎問題で特別委員会したって、最終的な結論が出たって、何らその後のアクションはない。こんな議会じゃだめじゃないですか。

先ほど「問われる議会の存在意義」というのを登壇して言いましたけど、私は「嫌われる勇氣」というのを今読んでますけどね。アドラーというドイツの哲学者が書いている。知ってる人は知ってる、知らん人は知らんでしょうけども、今100万部以上のベストセラーですよ、日本で。知らなかったら読んでくださいよ。

勇氣が要るんですよ、こんな発言するの。ほとんどの聞いている人は私を嫌うでしょう。嫌われて結構。何を私はしなきゃならんかということの本質を見きわめれば、必ずそれに対して賛同してくれる人は出てきますから、10人のうち1人かもしれませんけど。

この問題を、市長、あなたは十分にこれを知っておきながら、不採択になるのは国の判断だというような言い方を私は全協で聞きましたので、そうではなければ御答弁をいただきたい。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） この問題については、残念ながら、国の事業については不採択、10分の10の事業については不採択という結果になりました。これにはもろもろの事情があると思います。これは国の判断の中でありますんでですね。担当者は聞いているようでありますけれども。

しかし、この事業自体、調査ということ、実藤議員一生懸命言われまして、それはいい事業だということを言われました。ですから、それが可能かどうかということの調査ということについては、さっき言われてましたように、市が単独で何がしかの予算をつけるのか、あるいは沿線等、あるいは甘木鉄道の協力を得てするのか、そういうことの今からの選択肢ありますけれども、何とかやっていきたいというのが今の気持ちであります。

ただ、この不採択については、言われますように、国の判断でありますので、私どもがここでどうこうというあれはございません。詳しい話については担当課のほうに答弁させます、必要であれば答弁させます。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） そういう話は必要なし。先ほどから私の一般質問の姿勢は、1、2、3項目にわたって、何もあなたをここでどうだこうだじゃなくて、この種の問題については、トップがリーダーシップを発揮して、いろんな問題やっていく、こういう課題なんだということを言ってます。課長から、あるいは部長、係長から説明してもらわなくても結構、十分にそれは事前に話を聞いてますし、私も私なりに調査をしています。

この問題は、後でいろいろな角度、行政じゃない別の声聞くと、実現が非常に厳しいと

いう話でした。それ聞いて、皆さん、何でと思いませんか。思うんだったら調べましようよ。それを私は私なりにやるけど、私が言ったって、みんな支持もしないし、支援もしないでしょう。だから、そういう問題を捉えてやっていかない限りは、これだけのいい事業が単なるアドバルーンに終わる。しかも、平成32年というのは、5年ですよ。まだこれ不採択だったんで、今までこれ、皆さんも読んでるかどうかは、何回も言って失礼なんだけど、本当そうですよ。

朝倉市が2,200万円出すんですよ。2,000万円というのは申請するときの金額ですからね。そして、小郡が690万円だったかな、それから大刀洗だったっけ、百何十万円ね。そういうのここに載ってますよ、ちゃんと。もらったんです、これは。よそから持ってきた資料じゃない。全協で執行部からももらった資料に基づいて全部やっています、私は、これは。皆さん、全部持ってるのよ。

それは、これ一応御破算になってるんだよね、不採択という形で。この前、事務局のほうにも聞いたんだけど、職員のほうにも聞いたんだけど、推進協議会となってるんですね。私、甘木鉄道の最初の生き残りなんです。だから、私、出捐金も払っています。私、出資者なんです。あのときに、甘木鉄道を残す数多くした人たちの中の一人です。一生懸命やりましたよ。甘木町が賛同しなければ、よそは動かんといったときに、私と先輩議員3人が住民説得まで行って、そして当時の塚本倉人市長のところと呼ばれてやってきましたよ。残さないかん。それは、残すだけで精いっぱいだった、そのときは。その中の生き残りとして今日までおるわけですからね、これに対する思い入れは非常に大きい。森田市長よりも数十倍、私のほうが多いんじゃないですか。そのときにどんな苦労したかというのも話せば枚挙にいとまがないぐらいですから、いろんな思い出がありますよ。

そういった中で、これをどう実現していくか。今、30周年やったんですよ。華々しくね。何の総括ができてますか。この書かれておる国県に出したものは、調査、調査、調査と書かれてるんですよ。もうこの調査は終わってるんですよ、ほとんどが。終わってなかったら、何の甘木鉄道ですか。決算、諸般の事業に来るじゃないですか。あれ見たら、こうだこうだと書かれてますよ。これやってなかったの、今まで。森田市長、6年間、あそこの代表取締役。これは改めてするぐらいのことです。だから、この出し方が悪かったということになれば、そのとおり。

でも、推進協議会というのが、関連自治体の人たちが集まって、課長クラスが集まってやってる。これは毎年。そして、市長クラス、代表取締役、取締役、監査、年に一遍ぐらい集まる。そういうやり方してるんだけど、この中に出てきておるのが、これから甘木鉄道推進協議会というのをつくりますと書いてあるんですよ。これはまだ発足はしてないと。これからすると。そして、お金の問題も含めて再検討していかないかん。

市長、そうでしょう。まだすぐにこれがさっとできるの。調査費を含めて、これから先、これを集める。そして、これ専門家雇っていきます。いつもの手です。議会のほうには、

必ず効果その他について報告すると書いてあるんですよ。議会の責任も大きいんですよ。一体となってやるという話なんで、こういった事業計画が平成32年度を末として完成すると。JRの対応を、市長、しましたか。一応これつくるだけじゃなかったんですか。県との関係当たりましたか、国との関係当たりましたか。

こういう話をすると、市長は本当にうらやましいと思うね。もう普通の者だったら戦々恐々とするんだけど、余裕しゃくしゃくだもんね、私がこれだけ言っても。もう苦笑いしたり、笑ったりしてね。何もあなたに対して叱責をする人がいないからね。これはいかなのじゃないですか。市長、どう思いますか。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） 何を聞かれないのか、私もよく理解できませんけども、この問題について、やるべきことについて、例えばJRとの対応、あるいは国の国土交通省のほうの話、そういったものはしております。ですから、今疑問に思われてることについて答弁差し上げただけでありますので。以上です。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） 結果として、これ不採択になったということを取り上げてのね、私は。この事業がどうかこうか。そしたら、その不採択の理由は、課長のほうというか、担当に聞いてくれという話じゃないんじゃない。トップがこの原因究明を指示する、あるいは知っておる。そして、今後どう対応していくか。しかも、5年というスパンの中で、この夢のある事業を遂行していかないけない。もう5年後にはJRとの乗り入れですよ、鹿児島本線との。さあ、今までの行政のあり方で、やり方でできるんですかと。私は議員ですから、疑問を呈しています。

市長は、ああ、実藤議員、御心配なく、私たちは努力して一生懸命やりますと、これで終わるんですよ、普通。今まで終わってきた。朝倉農業高校跡地活用問題、十数年かかっている。市庁舎、ランドデザインができたがために、こっちに行ったり、こっちに行ったり。場所じゃない、方針が変わる。私、この前、3月議会でやってるから。ここじゃない、最終的には農林商工部は呼んできます。場所はどこだ。市庁舎の中だと思ったら、新市庁舎と思ったら、図書館の2階につくります。それから、その先、機構改革の中で何をどう市庁舎に残りますか。これからです。設計会社と検討しながらやります。こんなね、60億円、向こうは60億円、こっちが60億円になんなんとする金額を出す、朝倉市がとるべきことですか、これが。

市長、これでね、あなたが私のときに笑いながら悠然と答えるような中身ですか。これ市民はほとんど知らない。私がこの質問してるのは。議会の議員さんたちも、また実藤が言いよる。市長も、1時間、もうすぐ終わりますがね、これで終わりですよ。後、みんなこれ何かするちゅうことが、アクションが起こりますか。本当は、この夢のある事業ぐらいは、議会一体となって、市と一緒にやるべきと私は思ってる。単なる一議員で

すから、提案したって潰されますので。

だから、こういった問題を、きょう、第1回目のこの3つの項目を取り上げたのは、これで終わりではない。これから先、議会のほうにも事業の報告があるわけですから、徹底してやっていかないかん。恐らく全協で私が言うと、もう大概でやめちよけど、おまえだけの時間じゃないと。ふざけるなと言うんですよ。言論の府でしょう。どこで私たちは言葉を発しますか。場所を与えてくださいよ、ないんだから。ないんですよ、傍聴席の皆さん。議員がまともに話す場所というのは物すごく限られてるわけですから。

こういった状況の中で、私はきょう、3項目を上げました。企業誘致の問題、これもまだまだきょうは未完成です。今後、この3番目を中心にやっていきたいと思いますので、市長以下、行政の皆さん、一緒に検討し、頑張っていきましょう。よろしくお願いします。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（浅尾静二君） 16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午前11時零分休憩